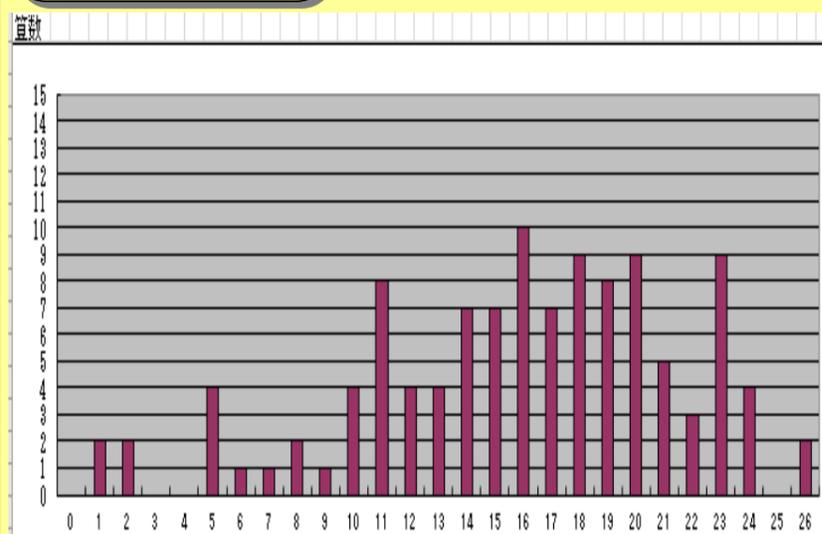


学力調査（5年）結果の分析・課題解決について

正答数分布



調査結果

観点別正答率

A 教科の内容		
教科	学年	都
算数	61.1%	60.1%

A 教科の内容

思考・判断・表現		技能		知識・理解	
学年	都	学年	都	学年	都
45.4%	47.2%	68.7%	65.0%	66.7%	67.6%

調査問題から

- 1-(5) 40.7%
「小数のわり算で余りを出す」問題
【数量や図形についての技能】
- 5-(1) 42.5%
「半径と直径の関係がわかっているか」の問題
【数量や図形についての知識・理解】
- 7-(3) 44.2%
「含まれない部分を移動させて面積を求める」問題
- 8-(1) 32.7% (2) 39.8%
(1) 「180°以上の角度を求める」問題
(2) 「時計の角度を使って答える」問題
- 10-(1) 43.4% (2) 44.2%
(1) (2) 「二次元表と資料を読み取る」問題
【数学的な考え方】

明らかにした課題

○全体の傾向

- 都平均は60.1%、学校平均が61.1%なので、都平均より1%高い傾向であった。
- グラフはなだらかで、下位層にも上位層にも分布している。
- 中間層に多く分布している。

○上位層・下位層の割合

- 約90% (23.4) 以上の児童 約5% (6名)
- 約60% (15.6) 以下の児童 約41% (47名)

○教科の内容（前年度比）

- ▼思考・判断・表現 (-1.8%)
- △技能 (3.7%)
- ▼知識・理解 (-0.9%)

○分析

- 1-(5) 一の位まで求める問題だが、小数点以下も求めてしまっている。または、あまりの出し方をわかっていないと考えられる。
- 5-(1) 半径と直径の名称が忘れてしまっている。直径は半径の2倍ということはわかっているが、半径は直径の1/2倍ということは理解できていない児童が多いと考えられる。
- 7-(3) 含まれない部分を移動させれば簡単に解ける問題だが、そのやり方がわかっていない。また、かぶっているところを引くということを理解できていないと考えられる。
- 8-(1) 360°から60°を引いて外側の角度を求める問題だが、60°と答えている児童が多かった。180°以上の角度に慣れていないと考えられる。
- 8-(2) 5分が30°であることが想像できなかったと考えられる。
- 10-(1)(2) 情報が多くどこを見たらよいかかわからない児童が多かったのではないかと考えられる。

学校

○短期的

- 小数のわり算で、あまりを小数で出す問題を取り組む。
- 分度器が180°までしかなく、それ以上の角度に慣れていない。また、180°以上の角度を求める問題に慣れていないと考えられるので360°から計算して求める問題を取り組む。
- 二次元表の読み取りでは、文章が多いため表のどこを見たらいいのかわからない、何をしたら答えが求められるのかわからない。読解力をつけるためにたくさん問題に触れさせる。

○中・長期的

- 診断テストの正答率を参考にして、ベーシックドリルの実施を通年で行う。適宜解説したり個に応じた与え方を工夫したり、基礎基本の定着を図る。
- 新しい学習や問題に出会ったときには、既習事項を想起させる導入や『既習事項をいかせば解ける』という態度を、授業を通して通年で育てていく。
- ケアレスミスを減らすため、採点基準を学校全体で統一し、徹底して見直しをする態度を育成する。

解決策

家庭

○日常的な取り組み

- その日の学習に関連する内容を宿題とする。
- ベーシックドリルを活用する。
(学年の実態に応じて)

○長期休業日等での取り組み

- 学習内容の復習を取り上げる。
- 算数に関する図書や数学的な活動等を紹介する。

